

# 令和2年度学校自己評価システムシート (県立戸田翔陽高等学校)

目指す学校像	基礎的な知識・技能の習得を基本に、主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するための資質・能力を身につけた「人財」の育成を目指す学校
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、生徒の学ぶ意欲を喚起して、学習の基盤となる「言語能力」を育成する。 2 かけがえのない存在、必要とされる存在としての自尊感情及び徳性を涵養させる。 3 志を高く持たせ、第一希望の進路を実現させる。 4 学校外資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域で生かす。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	2名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 1 月 3 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】難関大学への合格を果たすなど学習意欲の高い生徒がいる一方で基礎学力の定着に課題のある生徒もおり、生徒の学習意欲に幅がある。</p> <p>【課題】多様な学習歴を持つ生徒それぞれに合わせた学習環境を整え、より高い意欲を引き出すことが課題である。</p>	○生徒に分かる喜びを実感させたり学ぶ意義を認識させたりすることで、学習意欲を向上させる。	①少人数習熟度別授業を効果的に実施する。 ②多文化共生推進員や学習サポーター他、外部機関とも連携して学習支援を行う。	①成績不振者(評定1)の割合を昨年度以下にできたか。(昨年度26.3%) ②生徒の授業評価を2回実施し、昨年度以上の理解度が得られたか。(昨年度1年次国69.6%、数60.0%、英47.3%)	○新型コロナ感染症の影響もあったが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けてICTを活用した学習指導等を学校全体で取り組むことで学習意欲を向上させた。 ①2学期末の成績不振者の割合は、26.0%で、昨年度同時期(26.3%)と比較してほとんど変わらなかった。 ②生徒の授業評価を1回実施し、生徒の理解度は、国語85.3%、数学63.4%、英語60.9%であった。(昨年度、国語69.6%、数学60.0%、英語47.3%)ICT活用授業等の影響もあり大幅に上昇したと考えられる。	A
		○生徒の言語能力を養い、学習内容を確実に定着させる。	①アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒の言語活動を活発に行わせる。 ②タブレットや 프로젝ターを効果的に活用した授業を行う。	①・協調学習や研究授業を外部に公開できたか。(5月・10月) ・教員相互の授業観察が実施できたか。(年1回以上) ②授業においてタブレットや 프로젝ターを活用できたか。	○臨時休業中、各教科において動画等での学習保障を実施した。相互授業観察等で各教科において教員全員がタブレットや 프로젝ターを用いた授業を行った。今後、生徒の学習意欲、学習習慣の向上につながっていく取り組みであった。 ①新型コロナ感染症の影響により、学校公開、授業公開等が1回(11月)のみの実施となった。 ②タブレット(113台)の導入、Wifiの整備、校内でのスマートフォン使用ルール改正等により、授業におけるICT活用が一気に進んだ。今後のICT活用による更なる学習指導効果向上が考えられる。	A
2	<p>【現状】概ね落ち着いた学校生活を送っているが、対人関係が苦手な生徒や規則正しい生活態度が身につけていない生徒もいる。</p> <p>【課題】中途退学を防止するため、生徒一人一人に対する深い理解に基づいたきめ細かな指導を徹底することが課題である。</p>	○生徒指導部を中心に年次・分掌・教科、家庭・地域と連携して一人一人の指導・支援に当たる。	①ノーチャイム・ノーアナウンス・整容指導・声かけ指導等、全教職員が統一基準で生徒指導を行う。 ②校門指導を全教職員で実施し、挨拶や身だしなみの指導を丁寧に行う。	①授業出席率を昨年度以上(昨年度86.3%)、中途転退学者数が昨年度より減少(昨年度28人1月末)、遅刻者数の減少(昨年度6.3%) ②校門指導を全教職員で実施できたか。	○家庭・地域と連携して一人一人の指導・支援を行うことができた。 ①授業出席率は、新型コロナウイルス感染症に関連した欠次対応等により算出が困難であったが、遅刻者数は、1.2%と大幅に減少した。中途転退学者数は、1月末現在29名であり、ほとんど変わらなかった。 ②通常授業時の登下校指導、年2回の正門指導を全教職員で実施。	A
		○情報共有・校内研修を組織的・計画的に行い、教職員一人一人が技法や力量を向上させる。	①教育相談部の会議を定期的開催し、SC、SSW、教育相談員や年次と連携して組織的な取組を実施する。 ②専門研究者等の講師を招聘して教職員研修を実施する。	①教育相談部の会議を設定し、協議内容を情報共有することができたか。 ②年間2回以上、教職員対象の研修会が実施できたか	○年次会議や相談部の会議にて、教職員一人一人が技法や力量を向上させた。 ①教育相談部の会議を毎週開き、各年次・カウセンシングルーム・保健室等による情報共有を丁寧に行った。また、特別支援教育巡回支援(年5回)の情報も全職員に共有した。 ②8月に外部講師による「生徒理解調査」に関する研修、12月に本校のスクールソーシャルワーカーによる「福祉制度」に関する研修を行った。	A
3	<p>【現状】卒業までの系統的な進路指導で、生徒が自ら望む進路実現や自己実現を目指す取組は本校の形となりつつある。</p> <p>【課題】将来の目標が定まらない生徒への取組みが課題である。</p>	○地域にある社会資源と連携しながら、系統的な進路指導を行う。	①外部機関との連携で、生徒面談と体験学習を実施する。 ②本校の特性を活かし、空き時間に民間の自学自習システムを活用する。今年度より進路資料室で実施する。 ③模試の校外受検を勧めるとともに 基礎力診断テストを年度当初と年度末実施する。 ④夏季休業中に進学補習、企業見学を実施、個別の進路指導を行う。 ⑤就職希望者に対して、個別指導を行う。	①2回の生徒面談と、1年次中心にSSTが3回実施できたか。 ②実施データの活用と、利用者の進行管理を各学期確認できたか。 ③受検者数の増加、成績資料を活用し教科・進路指導を丁寧に行うことができたか。 ④夏季休業中に進学補習、就職対策を実施できたか。 ⑤学校斡旋による就職率が100%達成できたか	○地域にある社会資源と連携しながら、系統的な進路指導ができた。 ①生と面談は1回実施。SSTは2回実施し3回目は計画しており実施する。 ②スタディサプリは40名申込。臨時休業中に手続きを行い、視聴できるようにした。定期的に年次によって活用状況を確認したが、十分に活用できていない生徒へのより一層の働きかけが必要である。 ③模擬試験は延べ83名受験。受験後の指導を重視している。基礎力診断テストは実施。生徒の学力層とその変化を知る手段となっている。 ④年次や各教科の協力を得て予定通り実施することができた ⑤新型コロナ感染症の影響で試験開始が遅れ、いくつかの職種が採用が激減したため未定の生徒が例年より多い。	A
		○地域との情報交換を密に行い、連携を強化する。	①生徒の発表の場を設けることで、地域交流を行う。 ②コミュニティ・スクール初年度として、シンクタンクとしての学校運営協議会の運営を確立する。	①生徒の活躍を地域で発表する場が新たに増えたか。 ②年2回の協議会を実施できたか。	○新型コロナウイルス感染症の影響のため、地域で一緒に行う行事等は中止となった。浦和大学との教育連携協定に基づく講演会を収録して教室で視聴する形で1回行った。 ①今年度は残念ながら、既存の取組はできなかったが、新たに工夫した取組ができた。戸田市との包括連携協定に基づき、戸田市第5次総合振興計画冊子への写真掲載に写真部員の撮影したものが使われた。また写真部は市役所のスペースを借りて3月に写真展を開催する。 ②6月に予定していた学校運営協議会を延期して、8月に1回目を実施した。コミュニティ・スクールになってシンクタンクの機能を委員の方に担っていただくことについてご理解いただいた。2回目の実施を2月10日に予定している。	A
4	<p>【現状】外構工事を実施し、校内の様子が外から見えるようになったことで地域との心理的距離も近くなった。戸田市とも包括連携協定を結び、より一層の連携が期待される。</p> <p>【課題】生徒募集において、本校の特色や魅力を伝える努力が一層求められる。</p>	○地域や中学生・保護者のニーズを把握し、学校公開や学校説明会を適切な時期に的確に行う。	①ニーズを把握するためのアンケート調査を実施する。 ②定期的なホームページの更新(年間50回以上)や年間4回以上の学校説明会を実施すること及び年間3回以上の学校通信を発行する。	①中学生、新入生、保護者、地域等にアンケートを実施した結果を全教職員で共有し、認知度向上に活かされたか。 ②I部II部の入試倍率が昨年度以上、III部の定員が確保できたか。(昨年度I部1.01倍・II部1.27倍・III部0.44倍)	○今年度は、地域へのアンケートを町会長さんのご協力のもと約170件配布することができたが、様々なご意見を教育活動に反映することは時間的に難しかった。 ①地域から多数のご意見をいただき、公表する予定である。 ②令和3年度入試は、(I部1.24倍 II部0.56倍 III部0.37倍)である。(1月18日現在)HPや学校説明会で生徒の活動状況を紹介することで、学校の理解度を挙げる取り組みを継続的にやっていく。	B
		○地域や中学生・保護者のニーズを把握し、学校公開や学校説明会を適切な時期に的確に行う。	①ニーズを把握するためのアンケート調査を実施する。 ②定期的なホームページの更新(年間50回以上)や年間4回以上の学校説明会を実施すること及び年間3回以上の学校通信を発行する。	①中学生、新入生、保護者、地域等にアンケートを実施した結果を全教職員で共有し、認知度向上に活かされたか。 ②I部II部の入試倍率が昨年度以上、III部の定員が確保できたか。(昨年度I部1.01倍・II部1.27倍・III部0.44倍)	○今年度は、地域へのアンケートを町会長さんのご協力のもと約170件配布することができたが、様々なご意見を教育活動に反映することは時間的に難しかった。 ①地域から多数のご意見をいただき、公表する予定である。 ②令和3年度入試は、(I部1.24倍 II部0.56倍 III部0.37倍)である。(1月18日現在)HPや学校説明会で生徒の活動状況を紹介することで、学校の理解度を挙げる取り組みを継続的にやっていく。	B

学校関係者評価
実施日 令和3年 2月 24日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>教員全員が 프로젝ターやタブレットなどのICTの有効な活用により、生徒の各教科の理解度が高まったことは重要な成果である。規定範囲内でのスマートフォン利用は、時代に即した対応学ぶ中で、生徒の実態合った指導を確実に進めていくためにもICTの活用は不可欠である。今後も更なるICTの活用と環境整備を行い、主体的・対話的で深い学びと言語能力の育成に様々な方面から協力を得ながら取り組んでいく必要がある。</p> <p>基本的な生活態度を身に付けるための指導は、今後も継続的に進めていく必要がある。一方で、本校では何らかの問題を抱えている生徒も少なくない。学校生活に適用するために必要な支援を、学校、家庭、地域が連携し、柔軟に対応していくことが求められる。</p> <p>遅刻者が大幅に減少したことは素晴らしい成果である。学校が楽しい、学校に居場所があるという気持ちを持つ生徒が増加しているということである。遅刻者が減った背景として、学校と家庭の連携が密になったことも評価できる。外部等の専門職から研修を受ける機会も有益である。今後学校運営協議会委員も相談窓口の1つとして支援に参加することを検討していただきたい。</p> <p>きめ細かな進路指導は、生徒たちの学校生活だけでなく生き方そのものに良い影響を与えるものと思われる。それぞれの生徒たちが明るい未来を描けるような個別に対応した進路指導をこれからも継続していただきたい。生徒一人一人の多様な進路希望を実現するためには、生徒自身が進路に向けてあきらめないこと、自学自習することが大切である。地域の社会資源も活用していただきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響への懸念から、思うように地域との交流ができなかったのではないと思う。しかし、こうした状況の中でも、学校運営協議会やアンケートの実施が行われたことは意味のある進展である。状況次第ではあるが、少しずつでも地域の様々な人々と関わりながら、より特徴ある魅力的な高等学校として発展することを期待する。アンケートについては、「テーマ・コミュニティ」の視点で実施内容や対象を検討してはどうか。生徒募集に関しては、ポイントを絞って中学生と保護者にアピールできるとよい。学校案内の送付先の検討をさらに進めていただきたい。</p>

